

野菜の需給・価格動向レポート（平成30年4月9日版）

1 主要野菜の生産出荷状況


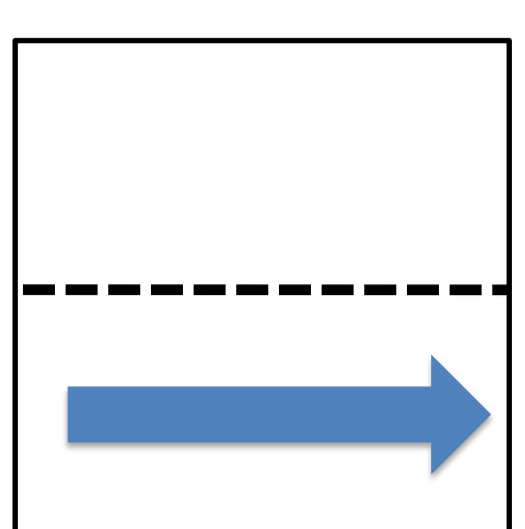
※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	3月の価格情報					4月		4月の主産地	生育及び価格の4月下旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 見通しの価格水準 平均価格 現時点の価格水準	
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額			(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	3月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	4月の主産地				
		月上旬	中旬	下旬							
葉菜類	キャベツ	96.86	160 (165%)	110 (114%)	104 (107%)	88.59	・9,763t (97%)	神奈川県(46)、愛知県(29)	→	神奈川県及び愛知県の出荷は、気温の上昇と適度な降雨により、順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 神奈川県及び愛知県の出荷は平年並みと見込まれることから、4月から平均価格が下がる中、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	
		92.10	160 (174%)	106 (116%)	94 (102%)	91.02	・4,186t (109%)	愛知県(70)、兵庫県(8)			
	たまねぎ	83.77	107 (128%)	109 (130%)	107 (127%)	95.80	・7,548t (87%)	北海道(54)、佐賀県(37)	↘	北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっており、作柄も平年並み以上であったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。佐賀産は、極早生品種は生育が遅れ、小玉傾向で現在は平年を下回る出荷となっているものの、生育が概ね順調な早生品種に切り替わることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年並みと見込まれ、佐賀産の出荷が平年並みに回復すると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平均並みで推移する見込み。	
		83.77	103 (123%)	105 (125%)	99 (119%)	95.80	・2,729t (87%)	北海道(49)、佐賀県(21)			
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	127.15	426 (335%)	344 (270%)	284 (223%)	277.31	・1,676t (96%)	千葉県(47)、埼玉県(27)	→	千葉県産は、春ねぎの出荷が本格化している中、降雨が多かったこともあり、一部に葉枯れ等の品質劣化が見受けられるものの、引き続き平年並みの見込み。埼玉県産は、気温の上昇と適度な降雨により概ね順調な生育となっていることから、現在平年並みの出荷は、今後は平年を上回る見込み。 千葉県産の出荷が平年並みと見込まれ、埼玉県産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、4月から平均価格が上がる中、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		473.04	841 (178%)	390 (82%)	279 (59%)	334.73	・217t (101%)	徳島県(26)、三重県(25)、香川県(13)、奈良県(9)			
	はくさい	64.18	140 (218%)	103 (161%)	101 (158%)	67.05	・1,563t (101%)	茨城県(94)	→	茨城県産は、適度な降雨と気温の上昇により生育は進んでいることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 茨城県産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、4月から平均価格が上がる中、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		68.70	145 (211%)	100 (146%)	96 (139%)	74.06	・1,309t (118%)	長崎県(32)、茨城県(29)、宮崎県(19)			
	ほうれんそう	338.43	393 (116%)	357 (105%)	425 (126%)	376.10	・767t (110%)	茨城県(35)、群馬県(32)、埼玉県(14)	↘	茨城県及び埼玉県産は、適度な降雨と気温の上昇で順調な生育となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬県産は、露地ものの低温の影響で生育遅れとなり、これまでの出荷は平年を下回っていたが、今後の出荷は好天により生育が回復すると見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。 茨城県及び埼玉県産の出荷が平年並みと見込まれ、群馬県産が平年並みに回復すると見込まれることから、4月から平均価格が上がる中、現在平均を上回っている価格は、平均並みで推移する見込み。	
		375.38	365 (97%)	298 (79%)	354 (94%)	416.73	・325t (108%)	徳島県(28)、福岡県(26)、岐阜県(22)			
	レタス (結球)	189.66	193 (102%)	120 (63%)	133 (70%)	156.23	・4,241t (116%)	茨城県(59)、兵庫県(11)	→	茨城県産は、適度な降雨と気温の上昇で順調な生育であったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。兵庫県産は、3月中旬以降の干ばつ気味で小玉傾向であり、これまでの出荷は平年を下回っていたが、作付面積が増加した分も出てくることから、今後は平年並みになる見込み。 茨城県産の出荷は平年並みと見込まれ、兵庫県産の出荷が平年並みに回復すると見込まれることから、4月から平均価格が下がる中、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		193.43	192 (99%)	120 (62%)	121 (62%)	165.00	・1,343t (133%)	兵庫県(48)、茨城県(28)			
果菜類	きゅうり	266.63	293 (110%)	286 (107%)	276 (104%)	266.63	・4,545t (92%)	埼玉県(26)、群馬県(24)、千葉県(13)	→	埼玉県及び千葉県産は天候に恵まれ順調な生育となっていることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。群馬県産は、順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 埼玉県及び千葉県産の出荷が平年を上回ると見込まれ、群馬県産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		254.91	281 (110%)	278 (109%)	265 (104%)	254.91	・1,379t (91%)	宮崎県(47)、高知県(17)、徳島県(13)			
	トマト (大玉)	356.77	331 (93%)	311 (87%)	307 (86%)	356.77	・4,197t (101%)	熊本県(28)、栃木県(26)、愛知県(10)	→	熊本県産は、天候に恵まれ順調な生育となり大玉傾向であったことから出荷は平年を上回っていたが、今後は平年並みの出荷の見込み。愛知県及び栃木県産は、概ね順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 熊本県、愛知県及び栃木県産の出荷は平年並みと見込まれるものの、市場での引き合いが弱いことから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		337.87	318 (94%)	301 (89%)	302 (89%)	337.87	・1,589t (106%)	熊本県(75)、福岡県(8)			
	なす	347.77	441 (127%)	427 (123%)	407 (117%)	347.77	・1,273t (89%)	高知県(55)、福岡県(17)	↘	高知県産は、3月上旬の曇雨天で生育が遅れたことから、現在の出荷は平年を下回っているが、天候に恵まれ生育は回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。福岡県産は、順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 高知県産の出荷が平年並みに回復すると見込まれ、福岡県産の出荷が平年並みの出荷と見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平均並みで推移する見込み。	
		330.95	419 (126%)	395 (119%)	375 (113%)	330.95	・589t (93%)	高知県(40)、熊本県(21)、福岡県(17)			
	ピーマン	578.80	617 (107%)	549 (95%)	491 (85%)	376.10	・1,168t (100%)	茨城県(54)、宮崎県(22)	→	茨城県及び宮崎県産は、気温の上昇で順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 茨城県及び宮崎県産の出荷は平年並みと見込まれるものの、4月から平均価格が下がる中、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		565.30	566 (100%)	512 (91%)	438 (78%)	416.73	・467t (100%)	宮崎県(45)、高知県(16)			
	根菜類	だいこん	79.03	157 (199%)	100 (127%)	76 (96%)	86.59	・6,588t (113%)	千葉県(74)	→	千葉県産は、気温が上昇して概ね順調な生育で、昨年10月の長雨や台風後に播き直したものの出荷が集中していることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 千葉県産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、4月から平均価格が上がる中、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
			80.47	152 (189%)	99 (123%)	76 (95%)	89.53	・2,356t (122%)	長崎県(45)、鹿児島県(30)		
		にんじん	111.16	168 (151%)	196 (176%)	211 (190%)	156.99	・2,163t (56%)	徳島県(73)、長崎県(13)	↘	徳島県産は、昨年10月の長雨や台風の影響で播種が遅れたため、現在の出荷は平年を下回っているものの、台風後に播種したものが順調に出荷されることから、今後は平年を上回る出荷の見込み。 徳島県産の出荷が平年を上回ることから、4月から平均価格が上がる中、現在平均を上回っている価格は、平均並みで推移する見込み。
			109.97	184 (168%)	184 (167%)	221 (201%)	148.36	・709t (47%)	徳島県(78)		

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪府中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成28年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。
6 さといもは入荷量が少ないため、今回以降は省略。なお、価格等は「ペジ探」に掲載。


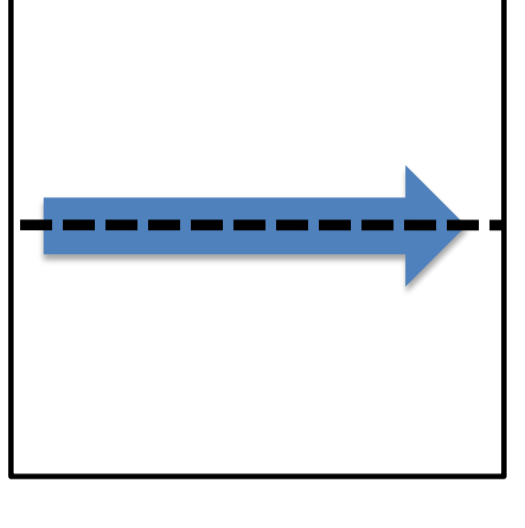

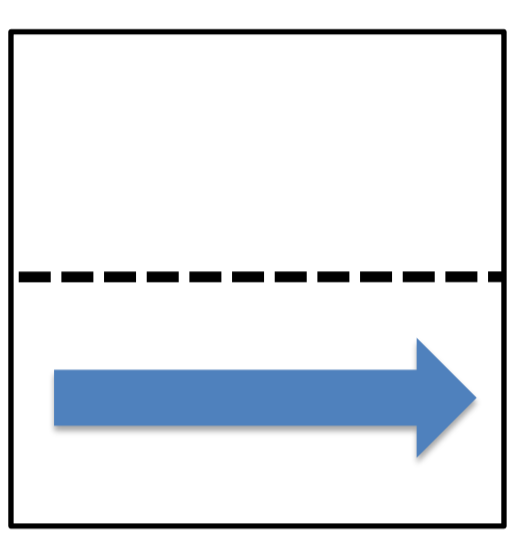

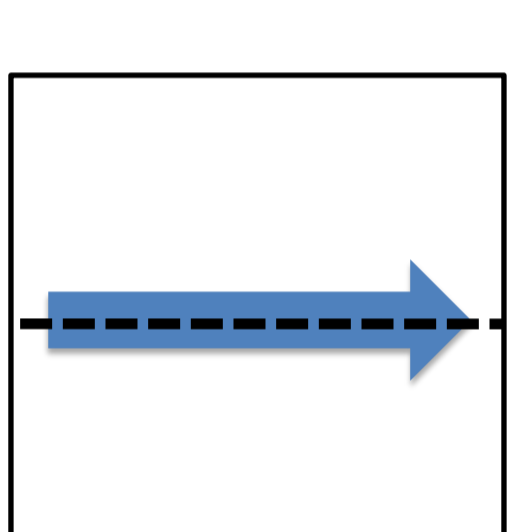
1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	3月の価格情報				4月 3月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	4月の主産地	生育及び価格の4月下旬までの見通し		
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	(参考)指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格							
		上旬	中旬	下旬					
いも類	 ばれいしょ	96.99	112	107	97	138.39	・4,421t (133%)	 北海道(50)、鹿児島(44) 鹿児島(65)、北海道(27)	北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっており、L及びMサイズ中心の出荷となっているものの、作柄は良好であったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。鹿児島は、順調な生育で出荷が平年を上回っていた離島産が終盤を迎え、本土産への切り替えが進む中、本土産は低温等の影響で生育が遅れていることから、平年を下回る出荷の見込み。 北海道産は平年並みの出荷であると見込まれ、鹿児島産の出荷は平年を下回ると見込まれるものの、4月から平均価格が上がる中、流通在庫が多いことから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		96.99	106	97	97	144.98	・1,509t (126%)		

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
 2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。
 6 さといもは入荷量が少いため、今回以降は省略。なお、価格等は「ベジ探」に掲載。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	3月の価格情報				4月 3月下旬の東京都・大阪市場の入荷量()内は、本年と過去5カ年平均値との比率	4月の主産地	生育及び価格の4月下旬までの見通し		
	(参考)過去5カ年平均価格	(参考)東京都・大阪市場の旬別価格							
		上旬	中旬	下旬					
洋菜類	 ブロッコリー	248.94	315	288	353	339.81	・986t (149%)	 埼玉(32)、香川(28)、愛知(16) 徳島(25)、香川(19)、長崎(15)、高知(8)	埼玉産は、適度な降雨と気温の上昇により順調な生育となっていることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。香川産及び愛知産は概ね順調な生育であることから引き続き平年並みの出荷の見込み。 埼玉産の出荷は平年を上回ると見込まれ、香川産及び愛知産は平年並みと見込まれるものの、4月から平均価格が上がる中、市場での引き合いが強いことから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		336.11	290	250	328	447.65	・245t (150%)		
葉菜類	 こまつな	282.42	321	224	202	307.96	・338t (108%)	 茨城(50)、埼玉(26) 福岡(76)、茨城(11)	茨城産は、作付面積が増加している中、適度な降雨と気温の上昇で順調な生育であることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。埼玉産は、順調な生育となっており、現在の出荷は平年を上回っているものの、今後は平年並みの出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年を上回ると見込まれ、埼玉産の出荷が平年並みと見込まれることから、4月から平均価格が上がる中、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		252.78	309	184	146	274.87	・175t (121%)		
根菜類	 かぶ	140.95	161	135	134	136.25	・398t (105%)	 千葉(84) 福岡(38)、徳島(34)	千葉産は、気温も上昇して順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、4月から平均価格が下がる中、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		158.05	188	143	163	169.59	・18t (93%)		

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成25～29年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
 2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
 3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。

2 野菜の輸出入動向 - 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について -

○輸入について

貿易統計によると、平成30年2月の生鮮野菜の輸入量は、10万6千トン(前年同月比147%)であった。また、輸入量の多い加工野菜は、15万5千トン(同128%)であり、野菜全体では、26万トン(同135%)と前年より大幅に増加した。

このうち、中国産の輸入数量は合計で14万1千トン(同158%)と、輸入量の54%を占めた。

2月の生鮮野菜の輸入量は、同月では過去10年間で最も多い輸入量となった。これは、台風被害や11月以降の低温、干ばつ等に伴い、国産の価格高騰が長期化したことから、重量野菜(キャベツ(前年の3.5倍)、はくさい(同19倍))を中心に加工・業務業者が海外産の仕入れを大幅に増やした動きが見られたと考えられる。

○輸出について

2月の輸出量は、野菜全体では2133トンと、前年同月をかなり大きく上回った(前年同月比113%)。生鮮野菜が1136トン(同112%)、加工野菜が978トン(同114%)と、生鮮野菜、加工野菜ともに前年同月をかなり大きく上回った。

なお、ながいもは輸出量が平成29年11月から4カ月前年を大幅に上回った。これは、国産の作柄が良く、太物が多いなど品質の良いことや、輸出先国の季節需要によるものとみられる。

□

野菜の輸入数量

野菜全体の輸入量(平成30年2月)

区分	平成28年		平成29年		平成30年	
	前年同月比	数量	前年同月比	数量	前年同月比	数量
生鮮野菜	94	71,680	110	105,621	147	105,621
加工野菜	94	121,093	95	154,842	128	154,842
野菜合計	94	192,773	100	260,463	135	260,463
うち中国産野菜合計	84	88,926	98	140,513	158	140,513
中国産シェア		47		46		54

(単位:トン、%)

主な生鮮野菜の輸入先(平成30年2月)

区分	輸入合計	1位						2位						3位					
		前年同月比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量			
たまねぎ	23,041	120	中国	21,789	タイ	654	アメリカ	569											
キャベツ	15,273	346	中国	12,904	韓国	1,184	ベトナム	803											
かぼちゃ	14,907	124	ニュージーランド	13,913	メキシコ	995													
にんじん	9,171	142	中国	7,327	台湾	1,359	オーストラリア	180											
ねぎ	6,041	149	中国	6,038	ベトナム	3													
はくさい	4,783	1,884	中国	3,719	韓国	1,064													
ばれいしょ	4,567	74	アメリカ	4,556	中国	11													
メロン	4,023	170	メキシコ	2,849	コスタリカ	451	ホンジュラス	345											

同(平成29年2月)

区分	輸入合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	19,269	中国	17,665	タイ	816	米国	762
キャベツ	4,420	中国	4,220	豪州	77	韓国	56
かぼちゃ	11,990	ニュージーランド	10,444	メキシコ	1,539	豪州	7
にんじん	6,450	中国	5,118	ベトナム	737	台湾	365
ねぎ	4,041	中国	4,041				
はくさい	254	中国	254				
ばれいしょ	6,213	米国	6,173	中国	40		
メロン	2,362	メキシコ	1,986	ホンジュラス	364	豪州	10

野菜の輸出数量

野菜全体の輸出量(平成30年2月)

区分	平成28年		平成29年		平成30年	
	前年同月比	数量	前年同月比	数量	前年同月比	数量
生鮮野菜	752	1,014	20	1,136	112	1,136
加工野菜	95	857	116	978	114	978
野菜合計	398	1,871	33	2,113	113	2,113

(単位:トン、%)

主な生鮮野菜の輸出先(平成30年2月)

区分	輸出合計	1位						2位						3位					
		前年同月比	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量			
ながいも	509	118	アメリカ	344	台湾	115	シンガポール	42											
いちご	353	147	香港	285	台湾	41	シンガポール	12											
きのこ(その他、はらたけ属以外)	91	148	台湾	58	香港	18	シンガポール	8											

同(平成29年2月)

区分	輸出合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
ながいも	433	台湾	230	米国	157	シンガポール	44
いちご	240	香港	211	台湾	19	タイ	4
きのこ(その他、はらたけ属以外)	62	台湾	33	香港	14	タイ	8

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)
 ※四捨五入の関係上、合計と各計の数字は一致しないことがあります。
 ※平成29年1月以降、関税法の統計品目番号の変更により、「にんじん及びかぶ」が「にんじん」と「かぶ」に分離・集計されています。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 斎藤、山田、松岡 TEL03-3583-9793、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
 ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.aic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。
 ※無断転載禁ず ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。